

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載
 【部門区分】第 3 部門第 1 区分
 【発行日】平成23年4月7日 (2011.4.7)

【公表番号】特表2009-545512(P2009-545512A)
 【公表日】平成21年12月24日 (2009.12.24)
 【年通号数】公開・登録公報2009-051
 【出願番号】特願2009-523768(P2009-523768)
 【国際特許分類】

C 0 3 B 5/18 (2006.01)

【F I】

C 0 3 B 5/18

【手続補正書】

【提出日】平成23年2月10日 (2011.2.10)

【手続補正 1】

【補正対象書類名】特許請求の範囲

【補正対象項目名】全文

【補正方法】変更

【補正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項 1】

音響波を生成するステップおよび導波管（18）を通して音響波をガラス溶融物（12）中に結合させるステップを含むガラス溶融物の混合方法であって、前記音響波が前記ガラス溶融物に対して前記ガラス溶融物中に音響流を生成するのに十分な音響出力を付与することを特徴とする方法。

【請求項 2】

前記ガラス溶融物内に結合された前記音響出力が少なくとも約 5 Wであることを特徴とする請求項 1 に記載の方法。

【請求項 3】

前記音響波の周波数が約 20 KHz ～ 40 KHz の間にあることを特徴とする請求項 1 または 2 に記載の方法。

【請求項 4】

前記ガラス溶融物が、耐火金属容器（14）に格納されていることを特徴とする請求項 1 から 3 いずれか 1 項に記載の方法。

【請求項 5】

前記導波管が、前記耐火金属容器の表面上でネジ込み式取付け部品（32、34）に対し物理的に結合されていることを特徴とする請求項 4 に記載の方法。

【請求項 6】

前記ガラス溶融物に前記音響波を結合するステップに、前記ガラス溶融物と前記導波管を接触させるステップが含まれることを特徴とする請求項 1 から 4 いずれか 1 項に記載の方法。

【請求項 7】

前記音響波が定在波であることを特徴とする請求項 1 から 6 いずれか 1 項に記載の方法。

【請求項 8】

容器（14）内のガラス溶融物に対し音響エネルギーを付与するための装置であって、音響波を生成するためのトランスデューサ（16）および前記トランスデューサおよび前記ガラス溶融物に対し音響的に結合された導波管（18）を備え、前記導波管（18）が、前記音響波の周波数で前記導波管内において定在波を作り出しかつ前記ガラス溶融物（

12) 中に音響流を生成するように構成されることを特徴とする装置。

【請求項9】

前記導波管(18)が前記容器(14)に対して物理的に結合されていることを特徴とする請求項8に記載の装置。

【請求項10】

前記音響波の周波数が20KHz～40KHzの間にあることを特徴とする請求項8または9に記載の装置。